

# 知って備える 防災メモ

第79回



## 『倶多楽火山』の近年の動向

登別の代名詞にもなっている『温泉』。地中で温められ、さまざまな成分が加わった温泉は、多くの人に癒やしを与えてくれる一方で、時として噴火し、恐ろしい被害をもたらす『火山』。忘れてはいけません。

## 活火山である『倶多楽火山』

『倶多楽火山』は、倶多楽湖とその周辺地域の小火山からなる火山群の総称で、過去8千年の間に、12回以上の噴火が確認されています。

直近の噴火は約200年前。マグマの噴出はありませんでしたが、日和山や大湯沼、登別地獄谷など、7カ所以上で水蒸気爆発が起こったとされています。



▲温泉街の近くに位置する日和山と登別地獄谷

『常時観測火山』として、札幌管区気象台が火山性の地震など、噴火の兆候を24時間体制で観測・監視している『倶多楽火山』は、平成29年4月には、大正地獄で突発的に熱湯や湯泥が噴出。最近では、登別地獄谷と大湯沼の間に位置する笠山の地面が高温になり、一部の植物が枯れるなどの現象が発生しています。現在のところ、噴火の兆候は見られていません。

しかし、噴火はいつ起きるか分かりません。市は、気象庁や北海道など、さまざまな関係機関と共に『倶多楽火山防災協議会』を構成し、避難計画や避難マニュアルの策定など、安全で安心なまちづくりを進めています。

市内には、豊かな恵みをもたらし、おそろしさも兼ね備える火山があることを理解し、生活することが大切です。

### ▼問い合わせ

総務グループ (☎**0193**)

人が輝き まちがときめく

# 仲間たち

Group

## 登別錬真館(幌別剣道スポーツ少年団)

登別錬真館は、市内に三つある剣道スポーツ少年団の一つで、来年、結成から50年を迎え、全国大会に何度も出場している歴史ある少年団です。

現在のメンバーは、小学4年生から中学3年生までの男女9人。毎週火・土曜日の18時から20時まで、市立図書館横の登別市青少年会館で練習に励み、胆振地区をはじめ、道内各種大会などで、日頃の成果を発揮するとともに、『礼に始まり、礼に終わる』という剣道を通して、周囲への思いやりや礼節を重んじることを養っています。

自身も子どもの頃に登別錬真館に通い、今年から館長として指導に当たる加賀谷太さんは、



▲熱心に稽古に励む団員

「試合に勝つことや昇級することも大切ですが、人としての成長を促せるような指導を心掛けています。剣道を続けることで習得した集中力や忍耐力は、勉強やその他のスポーツにおいても生きるはずですよ」と笑顔を見せます。

侍に憧れて幼少期から入団したという木村一蘭さん(中学2年生)は、「一本を決めたときの気持ちよさが忘れられず、続けてきました。これからも、精進していきたい」と意気込みを語ってくれました。

小学生から中学生までが参加でき、学区や学年の枠を越えた交流の場にもなっている同少年団に興味がある方は、加賀谷さん(☎090-8426-1131)まで。

## 剣道から学ぶ 精神力や礼儀作法